

音更町部活動の地域移行に関する推進計画（素案）に対するパブリックコメントの結果について

1 実施方法等

- (1) 実施方法 ホームページ及び小中学校のマチコミメールによる保護者通知で意見を募集（計画素案は、教育総務課、広報広聴課及び木野支所に設置）  
 (2) 実施期間 令和7年3月5日（水）から令和7年3月25日（火）まで

2 素案に対する意見の掲出件数及び提出者数

意見件数 22 件 意見提出者数 10 名（すべて申請フォームによる提出）

3 意見の概要とこれに対する町の考え方

対応区分：①素案を修正するもの 3 件、②既に素案に盛り込んでいるもの 14 件、  
 ③その他の意見・今後の参考として伺ったもの 5 件

	意見の概要	教育委員会の考え方	対応区分
1	<p><b>【部活動地域移行の目的】</b>                      普段の子供達の姿を知っている学校の先生達の目があるから、安心して部活をお願いできる。部活選択肢が増えたとしても不安要素が1つでもあれば地域委託なら部活させません。現在の合同チームで満足です。</p> <p>部活成績、成果を望んでいるわけではなく、3年間部活に限らず一つの事に打ち込む、続けれることが大事で、そこに人としての関わり、人としての成長学びが中学生にとって1番大事な部分ではないでしょうか。地域移行により教員への負担軽減になるのは重々承知しています。ただ地域移行により子供達、保護者へのリスクがありすぎます。普段バス通生の部活への送迎、練習時間の確保、子供達人間トラブル対応、体調不良等対応、学校との情報提供等れんげい、金銭面。子供達、保護者が1つでも不安要素が残るじょうたいで、地域委託移行はしないでいただきたいです。大きい学校はよくても少人数学校のリスクがありすぎます。音更町はちゃんとそ</p>	<p>ご指摘のとおり、中学生世代は多様な経験を通じて多くのことを学ぶ時期にあり、部活動は、教育課程外における貴重な「学びの場」であるものと認識しています。</p> <p>しかし、少子化の影響や教員の長時間勤務の常態化などにより、部活動の持続可能性が著しく低下しつつあり、将来にわたって生徒の活動環境を維持していくための取組として地域移行に着手しているものです。</p> <p>学校活動でなくなることの不安感が大きいものとお察ししますが、この取組は単に部活動を学校から切り離すのではなく、学校と地域の協働により創り上げていくことが重要と考えており、地域クラブ活動の認定基準や指導者の育成、学校との密接な連携関係の構築などを通じ、安心して活動を続けることができる体制づくりを進めていくこととしています。</p> <p>また、低廉な負担で参加できることも部活動のメリットであることを踏まえ、就学援助や大会参加補助による経済的支援とともに、地域クラブ活動における会費の設定は、活動の維持・</p>	③

	<p>こまで考えて話を進めてくれるとおもっています。</p>	<p>運営に必要な範囲で可能な限り低廉な額となるよう制度設計を進めます。</p>	
2	<p><b>【部活動の集約】</b>  すべての種目の地域移行は困難でしょう。一定の種目は拠点校方式になるのかもしれませんが。私としては、環境面の体制を作ってくださいれば、拠点校方式ならすぐにできそうという思いも持っていました。現段階でも、もっと教員と率直で具体的な意見や思いを共有すると良いのではと思います。現場で先の見通しが見えないことに先生方は少し困り感もあります。アンケートを回答したものの、そのあとどういう見通しなのかが見えてこない状況の中、一部の種目のみ一人歩きしているような感覚も覚えています。一部の種目のことであっても、学校全体にきちんと説明しながら進めていただければ幸いです。</p>	<p>拠点校方式による合同部活動の導入については、団体種目を中心に地域移行に向けた環境整備の一環として有効であると認識しています。  ご指摘のとおり、導入に向けては教員との情報共有や意見聴取が重要と考えますので、直接意見を交換できる場を設けるよう働きかけることとします。  ◆素案 10p 第2章2の(2)に記載</p>	②
3	<p><b>【活動時間】</b>  体育館の時間振り分けで後半の部活は帰宅が7時半を過ぎますが、地域移行でどの部活も放課後の時間に活動し、6時半までには帰宅できると学習にあたる時間も取れるかなと思いました。</p>	<p>部活動の問題点に「勉強との両立」を挙げる生徒が約半数に及ぶことから、学習時間の確保は地域移行においても課題であると認識しています。  生徒の疲労感への配慮や多様な課外活動の保障も見据えながら、学校生活とのバランスが取れた活動となるような制度設計を進めます。</p>	③
4	<p><b>【教員の負担】</b>  ・教員の業務が減ることにより質の高い授業を行う、新しい教え方を検討するなどの時間が生まれることを期待します。また、それにより教員を希望する人が増え、部活の指導者を職業とする人が現れることで就職機会の創出にも繋がると考えます。  ・教員への負担軽減が急務であると考えます。教員はプライベート度外視でほぼ人生のほとんどの時間を部活動に費やしており、当然家族の時間を取ることもできず、か</p>	<p>教員の働きやすさと働きがいが高めるため、学校と連携しながら進めている「学校における働き方改革」においても部活動指導に関わる負担軽減を掲げているところであり、この地域移行の取組の推進による教員のワークライフバランスの向上を学校教育活動の充実につなげていきたいと考えています。  ただし、部活動の指導を希望する教員については、兼職兼業により地域移行後も引き続き地域クラブ活動の指導に当たることができるよう環境の</p>	②

<p>わいそうだと思います。今の若い世代はそうしたことを嫌う傾向にありますので、教員の成り手不足、早い段階での教員離職に繋がっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の中には、部活動が負担だと思っている方と、負担はあるが熱意をもって指導したいと思っている方がいると思います。そして、その先生がいるからこそ強くなっている部活、いつも学校にいる安心できる先生が顧問だから入りたい部活、というのもあると思います。部活動をやりたい先生、指導力のある先生については今後どうなるのでしょうか？手を引かなければならなくなるのでしょうか？ぜひ続けて欲しいと思いますし、その分賃金に反映してほしいと思います。地域の指導者に支払うような指導料を、部活に限っては教員の給与にプラスできる体制を作ることはできるでしょうか。</li> <li>・先生達の中でも、部活指導ありきで中学教員を目指したという先生もおられます。その先生達を部活動から切り離してしまうのも非常にもったいないと思います。これまでは先生達の熱意の上で成り立っていた部活動を、希望制とか有志で、別報酬で指導に当たってもらうのもいいのではとも思う。部活指導を担う先生は担任を避けることができる等柔軟な対応ができると良いのでは？</li> <li>・地域移行した際に、学校施設や用具を使用するなどの課題もあると思います。結局教員や学校管理職が対応しなければいけないことが無いよう、警備員や管理人を雇うなどの対応が必要と考えます。</li> <li>・小学校の少年団にも教員が関わっていることが多く、そこへの支援も必要ではないかと思います。</li> </ul>	<p>整備を進めます。</p> <p>◆素案 12 p 第 2 章 4 の (3) に記載</p>	
	<p>地域移行に伴う学校施設等の使用・管理については、教員に新たな業務を発生させない仕組みづくりを進めます。</p> <p>また、少年団活動については、学校教育の一環として行われる部活動とは異なりますが、教員が義務的な参加を求められることのないよう配慮していく必要があると考えます。</p>	③

5	<p><b>【指導者の確保】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者については、性犯罪歴などがないことを確認の上着任するような採用プロセスを希望します。</li> <li>・ある程度の指導者は、教員に頼らざるを得ないと思います。兼職兼業の許可が示されていますが、これまでないがしろにされてきた、社会一般の習い事の指導者が通常与えられるべきものと同様の報酬をきちんと補償されるようになればと思います。</li> <li>・地域の人材がきちんとした指導ができるよう、部活動を行う方への十分な支援が必要です。</li> <li>・指導者確保に関しても、それなりの報酬がないとなり手がいないと思う。</li> <li>・指導員の確保において地域移行の本旨を踏まえて兼職兼業等の許可に関して積極的な協力が得られるよう周知するとありますが、地域活性のためを目的とした業種に関しては、音更町職員の兼業をいち早く認め、ボランティアではなく仕事として指導者になれることが持続的な指導体制の構築につながると考えます。</li> </ul>	<p>11 p 第 2 章 3 の (2) 「地域クラブの認定による適切な運営の促進」 3 行目の「適切な指導者の配置」を「適切な指導者の配置と報酬額の設定」に修正します。</p> <p>指導者については「量」と「質」の確保が必要と考えており、町内の関係団体等への周知と登録制度の活用などに加え、希望する教員が引き続き指導に当たることのできる環境を整備するとともに、これまで部活動の顧問が担ってきた教育的側面に十分な配慮ができるよう、各種研修機会の提供や学校との連携により求められる指導能力の育成を図ることとしています。</p> <p>また、地域における活動を安定的に持続させるためにも、指導者が適切な報酬を得ながら活動できる体制づくりを進めていくこととします。</p> <p>なお、町にも一定の条件の下で兼職兼業を認める制度がありますので、様々な関係団体等とも情報を共有しながら周知に努めます。</p> <p>◆素案 12 p 第 2 章 4 の (1)、(2) 及び (3) に記載</p>	<p>①</p> <p>②</p>
6	<p><b>【移動手段】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスを効果的に使用して生徒の移動手段（もちろん無料で）を確保できないでしょうか。ある程度の大きさか便数増が必要かもしれませんが、例えば5校を周回するコースにするような形です。生徒が乗る可能性のある時間帯だけでも、現状から少しコースを伸ばせるのではないのでしょうか。</li> <li>・練習会場の確保、生徒たちの送迎を町のバスでしっかり行うこと。部活をする家庭への町からの補助もするべきだと思います。</li> <li>・家庭においては、送迎や部費の負担が増えるのは困ります。お金と時間と車に余裕のある家庭しか参</li> </ul>	<p>活動を一定程度集約して実施する際には、季節や時間帯、移動経路を問わない安全な移動手段の確保とともに、生徒の活動機会を損なうことのないよう、移動や送迎に関する負担を最小限とする仕組みづくりが必要であるものと認識しており、公共交通や民間運送事業の活用、乗り合い送迎のルールづくりなどの検討を進めることとしています。</p> <p>◆素案 14 p 第 2 章 6 の (2) に記載</p>	<p>②</p>

<p>加できなくなつては格差が生まれるとも思います。移動があるのは、特に女の子は心配です。近隣の学校との合併は仕方ないかなと思いますが、できる限りなんとか学校内での活動を維持してほしいなと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の地域移行は良い取り組みだとは思いますが、下音中サッカー部の部員のひき逃げ被害などもあり、安全に移動できる手段の確保が心配です。スクールバスで練習会場と学校までの送迎等してもらえるといいのかな…と思います。現在、中学校のサッカー部は週3回でキックロスで練習し、環境としてはとても良いと思いますが、移動に時間と体力が奪われているように感じています。地域移行で学校間のスクールバス移動が可能になれば、同じ原理で練習場と学校間の送迎を担ってもらえると安全面でも良いと感じます。ただ、バス移動となると運転手、燃料代などの確保をどうするかが課題になるとは思います。</li> <li>・部活動の地域移行に反対ではないのですが、活動場所が通っている学校ではなくなる場合の子ども達の移動手段を心配しています。普段の練習から親の送迎が必要となると、共稼ぎの家庭は難しいです。親が仕事があつて送迎できないから部活に入れない、という子どもが出ないように、望めばどの子どもも平等に部活動に打ち込めるように、安全に移動できる活動場所や移動手段を地域移行を進めるのと並行して検討して頂きたいと要望します。</li> <li>・中学校の部活動の地域移行に関しては、少子化や教員の働き方改革もあり、ある程度仕方ないと理解しています。懸念点として、説明文にもありますが、送迎が不安です。昨今は共働き家庭も多く、平</li> </ul>	
--	--

	<p>日・休日問わずに練習時間および会場への送迎が大きな問題となってきます。共働き家庭にも不利のないように、制度設計（送迎バスなどの送迎サービス→ある程度の費用負担は覚悟しています）を合わせてお願いしたいです。小さな学校の子供ほど不利な制度設計にならないことを望みます。</p> <p>・安全で効率的な移動手段の確保に向けた検討も重要と考えます。一つの施策として遠方への大会参加にスクールバスの活用することなども町全体として地域移行を支援するためには必要と考えます</p>		
		<p>12p 第2章3の(2)「地域クラブの認定による適切な運営の促進」7行目の「部活動と同等の運営支援」を「部活動と同様に施設の使用や遠征時の移動などの支援」に修正します。</p>	①
7	<p><b>【小学生を対象とした地域クラブ活動】</b></p> <p>個人的には、部活動の地域移行については賛成です。ただ、中学校から地域移行するよりは小学校から開始する方が、保護者の負担や子供達の選択する道も大きく変わると感じます。</p> <p>少年団活動においても、指導者不足や業務改善、少子化に伴い、存続さえも危うい環境になってきていると感じます。少年団の年会費は、町クラブ（一般のスポーツクラブ）より安価なため、保護者の負担も抑えられ安心して通える子供達も沢山います。ただ、町クラブしか選択肢がない環境になってしまえば、好きなスポーツさえ諦めなければなりません。小学校から地域移行となれば、年会費を少年団（団費）と同等の費用設定に近づけていただき、保護者の負担も最小限にさせていただくと、子供達が沢山のスポーツを選択できる環境になると感じます。また、小学校から町クラブへ行く子供達は、中学校が地域移行となったとしても、そのまま町クラブに残留し、町内の優秀な選手が町内で活躍できない環境になります。</p>	<p>小学生を対象とした少年団活動については、学校が主体となる部活動とは異なり、保護者会などを基盤にそれぞれの地区、地域において行われているものと認識していますが、少子化の影響が少年団活動にも大きく影響している現状は把握しており、小学生世代のスポーツ・文化芸術環境についても活動の機会を確保していく必要があると考えています。</p> <p>教育委員会では、部活動の地域移行の取組が、将来的な地域のスポーツ・文化芸術環境の充実に大きく寄与するものと考えており、世代を問わず多様な活動に参加する機会を創出できるよう努めます。</p>	③